

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	嬉野市立大草野小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	・「主体的・対話的で深い学び」を軸とした授業改善が不十分であり、校内研修や授業研究会等の内容を深める必要がある。 ・特別支援教育を全職員で対応することへの意識が高まっており、継続させたい。
------------------	---

2 学校教育目標	笑顔いっぱい、生き生きと学び合うまっ子の育成
----------	------------------------

3 本年度の重点目標	① 学び続ける子どもの育成（(1)学習意欲を喚起する手立ての工夫 (2)思考力・表現力の育成 (3)読書教育の充実 (4)望ましい学習習慣と学習態度の育成） ② 思いやりのある子どもの育成（(1)当たり前のことが当たり前にできる指導の徹底 (2)思いやりの心の育成 (3)自主的・自発的な態度の伸長 (4)特別支援教育の充実） ③ たくましい子どもの育成（(1)体育科学習の充実 (2)外遊びの奨励 (3)健康的な生活の習慣化 (4)食育の推進 (5)危機回避能力の向上）
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の進捗状況を確認し促進を図る。	B	・マイプランの成果指標を達成できた自己申告する教師は83%。	A	・マイプランの成果指標を達成できた自己申告する教師は90%以上 ・日々の授業の中で取組を意識した実践がなされている。	A	・授業参観等を通して、子どもたちに分かりやすい授業をしたいという先生たちの意識が伝わってきた。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○児童の活用力を育む授業づくりを目指す ○全職員が公開授業研究会を1回以上行う。 ○授業の終末、自身の学びを振り返ることができる児童90%以上。	・算数科の授業を中心に、全職員が授業公開を行い、相互参観と授業研究会を実施する。 ・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、授業の終末に振り返りの活動を設定する。	B	・10月までに、2、4、5年生の研究授業及び授業研究会、各クラスの振り返りの実践交流を通して、学力向上に対する課題を共有することができた。 ・児童に実態に応じて、ことはタイムや計算タイムでは、細やかな個別指導ができています。 ・算数の学習の振り返りの時間を確保し、94%が書くことができています。	A	・意図する・振り返りを意識して授業を計画したり、単元全体を身近な生活と関連した授業に組み替えたりして、授業公開を行うことができた。全員の授業研究会を実施し、見通しの持たせ方と振り返りの関係についても交流することができた。 ・振り返りの時間を確保し、振り返りの手立て表を活用しながら、98%の児童が振り返りを書くことができた。	A	・授業参観では、子どもたちが伸び伸びと授業を受け、発言もしっかりできていて嬉しく思う。先生たちの指導のおかげだと思う。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○読書教育の充実	○年間130冊達成児童100%を目指す。 ○いろいろな分類の本に興味関心を持つ児童を増やす。 ○家庭での親子読書実施率を90%以上を目指す。	・教師やボランティアによる読み語りを実施するとともに、委員会児童の企画による図書館まつりを利用し、読書の奨励を行う。 ・親子読書回覧板を実施し、家読を勧める。	B	・「親子読書回覧板」が家庭での読書のきっかけづくりとなっている。 ・100冊を達成している児童が10月上旬で60人以上いる。2日に1回しか貸し出しができないが、貸し出しの日には、ほとんどの児童が図書室を利用している。	A	・年間130冊を達成した児童は102/110人で92%達成 ・色々なジャンルの本に興味・関心が持てるように分類ビンゴ等に取り組み読書の幅が広がった。 ・読み語りボランティアによる読み語りの成果で読書好きな児童が増えた。	B	・学校ではしっかり読書に親しんでいるようだが、保護者アンケートを見ると家庭での読書習慣化が定着できていないようだ。家庭での読書実施率を高めたい。	・図書館教育担当者 ・国語主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学級活動や道徳の授業を充実させ、年1回以上の集会活動や体験活動を実施する。	・豊かな心を育む学級活動や道徳の授業を実施する。 ・人権集会や平和集会を行うことで、人権・同和教育や平和教育の推進を図る。 ・コミュニティと連携し、体験活動を充実させる。	B	・平和集会を行い、平和の大切さについて考え、各学年で平和に関する標語を作り、人権や平和についての意識を高めた。	B	・人権集会を行い、人権や平和の大切さについて考え、各学年で人権標語を作り、人権・同和教育に関する意識を高めた。	B	・豊かな心を身に付ける教育はされているようだが、実施結果の課題を明らかにして、十分達成を目指してもらいたい。	・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの作成・見直しを行う。 ・QUテスト結果の分析活用やいじめの対応についての研修・会議を実施する。	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルの作成・見直しを行う。 ・QUテスト結果の分析活用やいじめの対応についての研修・会議を実施する。	B	・「QUテスト」の結果分析を行い、その後の学級の児童支援や学級経営に生かされた。 ・「心の相談アンケート」を実施し、気になる子には個別に対応したり、保護者との面談で活用したりした。	A	・心のアンケートやお話デイズをもとに全児童への個人面談を実施し、早期発見につなげた。そして、学級の個別支援に活かした。 ・週1回気になる児童・気になる行動等への連絡会の時間を確実に実施し、共通理解・認識のもと児童対応にあたることができた。	A	・いじめ防止対策委員会の開催やアンケート実施、情報交換会など校内での体制や取組はよくできている。	・生徒指導主事 ・教育相談担当者
	○児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)90%以上	・児童の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施 ・学習や体験活動で、児童に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	B	・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童90% ・共通の研究テーマのもと、校内授業研究会を3回実施した。今後5回実施する予定。 ・振り返りの活動に課題が残る。今後、活動のねらいと関連させて学びを深めさせる必要がある。	A	・「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童90% ・共通の研究テーマのもと、全職員が公開授業を行い、年間校内授業研究会を8回実施した。 ・振り返りは徹底化し、新たな活動への意欲を示す児童が増加した。	A	・児童が「将来の夢や目標を持って生活していることがうかがえる。今後も子どもたちが学習や体験活動を通して夢や目標を膨らませてほしい。	・教頭 ・教務主任
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○食事のマナーを守り、好き嫌いをなく、給食を食べることができる児童90%以上	・食器や箸の持ち方、食事の際の姿勢など、マナーについての指導を徹底する。 ・学校栄養士による食育の授業や給食だより、健康委員会の発表等を通して、食の大切さを知らせる。	B	・学校栄養士の食育の授業を行い、食への関心を高めることができた。 ・夏野菜の栽培や全校でのサツマイモ栽培を通して、育て食する楽しみを味わうことができた。 ・食事マナーに対する啓発はできたが、それを定着につなげることが不十分だった。	A	・給食を残さず食べていると回答した児童95%。 ・全学年で学校栄養士による食育の授業を行うことができた。食への関心を高めることができた。 ・野菜の栽培や全校でのサツマイモ栽培・収穫を通し、育てて食する楽しみを味わうことができた。 ・給食マナー週間を年間2回実施し意識を高めた。	A	・給食を残さずしっかり食べている子どもが多く、学校での食育指導がしっかりなされていると思う。	・体育主任 ・食育担当者
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日、定時退勤推進日の徹底 ・職員の意識改革 ・パソコン校内LANや共有フォルダの活用	B	・全職員の時間外勤務時間の平均30時間 ・定時退勤推進日は概ね達成できている。 ・夏季休業中に5日間、学校閉庁日を設定し、教職員が休暇を取得しやすい環境を整備した。	B	・全職員の時間外勤務時間の平均30時間 ・定時退勤推進日や強化日の取組は概ね達成できている。 ・冬季休業中は、教職員が休暇を取得しやすい環境を整備した。	A	・職員の時間外勤務時間は他校と比べても十分達成できているのではないか。先生たちには元気で子どもたちに接していただきたい。休めるときには休んでほしい。	・管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○支援体制の確立	○特別支援教育に関する専門性を高めるために年に4回の校内研修を行う。 ○支援を必要としている児童を把握し、個に応じた支援を行う。	・講師を招聘して職員研修を行う。 ・個別の支援計画を作成し、個に応じた指導支援を行う。 ・ケース会議を行い共通理解を図る。	A	・必要に応じてケース会議を開き、保護者や専門機関と連携して指導支援を行った。 ・毎週支援を要する児童について、情報交換をし共通理解をして個に応じた支援を行った。	A	・必要に応じて支援会議を開き、保護者や関係機関と連携して指導支援の充実を図った。 ・支援を要する児童について情報交換をし、有効な手立てを共有して個別支援の充実を行った。	A	・特別支援学級の個別指導等、個々の能力に応じた教育がなされている。	・特別支援教育コーディネーター ・特別支援学級担任
○安全対策	○危機回避能力の向上 ○危機管理及び安全対策の強化	○防犯ブザー所持率を100%にする。自転車の正しい乗り方を周知し、ヘルメット着用率を100%にする。 ○災害避難の理解を深め、自分の身は自分で守る意識を持たせる。	・防犯ブザー所持点検を毎月行い、自転車については保護者への啓発や交通安全教室等を行い、徹底を図る。 ・避難訓練、学級活動等に危険予知について具体的に指導する。 ・PTA、交通指導員、見守り隊と連携を図る。	A	・1学期の防犯ブザーの所持率は100%を維持継続している。自転車ヘルメットの着用率も100%できている。 ・避難訓練(不審者対応)、防犯教室、防犯ビデオ視聴を通して、危険予知について具体的に指導できた。	A	・防犯ブザーの所持率は100%を維持継続。 ・津波防災の日には地震火災避難訓練を実施し「訓練は本番のように、本番は訓練のように」を指導できた。 ・全校朝会や長期休業前だけでなく、日々の班登校の様子など随時安全指導を行うことができた。	A	・児童の事故や非行の話は全く聞かない。学校側の指導が行き届いている結果だと思う。安全教育はよくできている。	・安全担当者 ・生徒指導主事

5 総合評価・ 次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ・小中連携で児童生徒の学び方(学習スタイル)をつなぎ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりに取り組む。 ・支援を要する児童についての情報を全職員で共通理解し、個に応じた支援の在り方や効果的な学級経営の方策を探り、特別支援教育の充実を図る。 ・コロナ感染防止対策を含む危機管理体制及び安全対策の強化を図る。
--------------------	--